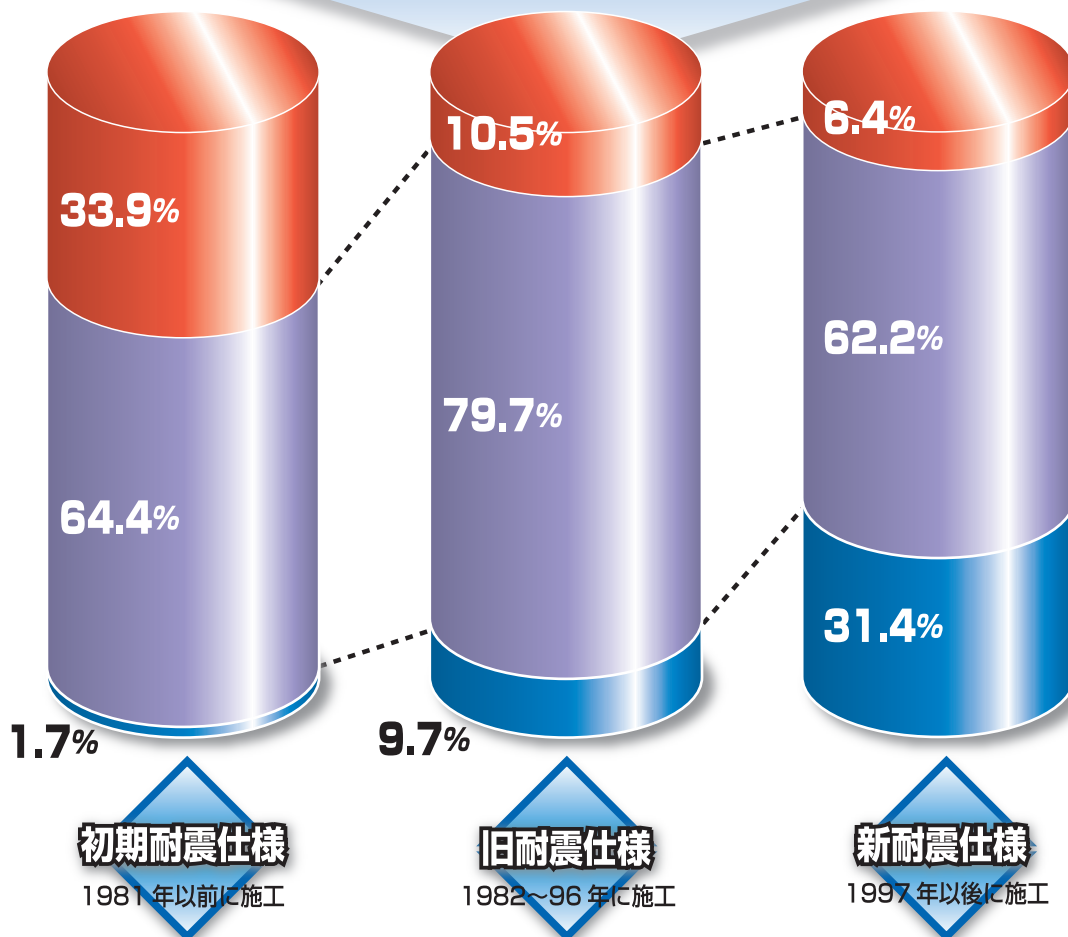


東日本大震災 FRP 製水槽調査結果 第1報

東日本大震災（M9.0）の被害は広範囲にわたり、マスコミでは他の地震報道と比べ、罹災者の方々の生活基盤を破壊した津波・原発関連のニュースが多く流されています。安定した日常生活をおくるための「生活基盤」という言葉は、従来ライフラインのことを示していましたが、今回の震災では、空気（風）や土壌などの生活環境をも含めた意味に変わってきました。これも被害の大きさを示す現象だと言えます。

**被災地域への〈新耐震仕様〉給水タンクの
納入台数は約 32,000 基です。
震災後に 1,034 基の被害調査依頼がありました。
第1報として、その結果を公表いたします。**

2011年6月末日現在



項目	基数	比率 (%)	項目	基数	比率 (%)	項目	基数	比率 (%)
更新必要	60	33.9	更新必要	54	10.5	更新必要	22	6.4
修理すれば使用可能	114	64.4	修理すれば使用可能	409	79.7	修理すれば使用可能	214	62.2
異常なし	3	1.7	異常なし	50	9.7	異常なし	108	31.4
合計	177	100	合計	513	100	合計	344	100

更新必要：パネルが破損して貯水機能を確保できない状態。
 修理すれば使用可能：貯水機能を確保しているが、部品・部材の交換が必要な状態。
 異常なし：増し締めなどの軽微な処置を含め、貯水機能を継続できる状態。

結 果

東日本大震災の災害地域に設置されていた FRP 製給水タンクの総数（新耐震仕様）は約 32,000 基です。この内、更新が必要とされた物件はわずか 22 基でした。地震規模の大きさから考えると、耐震性能を十分発揮し被害を最小限に留めていると考えられます。

給水管が断絶する地震動の中で、数々の耐震実験から得たデータを材質強度や補強構造に活かした FRP 製給水タンクは、確実に「生活水」を守りました。

直結給水方式と比べて、災害時において FRP 製給水タンクの設置は、住民の皆様により安全・安心を提供できることを実証しました。

これからも順次データを公表し、給水タンクの耐震性向上に活かしてまいります。



仮設住宅に設置された FRP 製給水タンク
給水車から給水タンクに給水している